

Project
Operation
Sight for
All

POSA 事業報告

No.19

●平成26年度



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



POSA 目 次



理事長より

『花鳥風月と J A Z Z』	POSA理事長 医療法人 輝秀会 理事長 倉富 彰秀	 P1
-----------------	----------------------------	----------

副理事長より

『POSA アイキャンプに参加して』	POSA副理事長 医療法人 菊池眼科 理事長 井上 望	 P6
--------------------	-----------------------------	----------

国際エンゼル協会より

『続けることの価値』	特定非営利法人 国際エンゼル協会 事務局長 前田 泰宏	 P7
『見えることの喜び』	国際エンゼル協会 バングラデシュ責任者 アジズル・バリ	 P8

ライオンズクラブより

『アイキャンプ活動（バングラデシュ眼科医療援助事業）と神埼ライオンズクラブ』	神埼ライオンズクラブ会長 竹下 賢	 P9
--	-------------------	----------

アイキャンプ参加者より

『初めて POSA に参加して』	えだみつクリニック 院長 枝光 理	 P10
『アイキャンプ参加の感想』	阿久津医院 眼科医 堀 秀行	 P12
『今年は往路に2日かかりました』	くまもと森都総合病院 視能訓練士 吉田 幸代	 P14
『POSA に参加して』	東海中央病院 看護師 各務 晃子	 P16
『アイキャンプに参加して』	西南学院大学 3年（※2014年12月時点での学年） 富永 杏花	 P17
『アイキャンプに参加して』	立命館大学 1年（※2014年12月時点での学年） 西本 千紘	 P18
『2回目のバングラデシュ』	学校法人 福岡成蹊学園 福岡外語専門学校 1年（※2014年12月時点での学年） 今村 玲南	 P19
『バングラデシュ「らしさ」』	立命館アジア太平洋大学 1年（※2014年12月時点での学年） 倉富 菜々	 P20
『新鮮で強烈なバングラデシュでの初体験』	佐賀県立佐賀北高等学校 3年（※2014年12月時点での学年） 永渕 李成	 P21
『ドンノバ。』	学校法人 都築育英学園 リンデンホールスクール 中高等学校部 高校2年（※2014年12月時点での学年） 枝光 栞里	 P22
『バングラデシュの日々』	学校法人 東明館学園 東明館中学校 3年（※2014年12月時点での学年） 枝光 輝	 P23
『初めてのバングラデシュ』	各務原市立 那加第一小学校 6年（※2014年12月時点での学年） 各務日央里	 P24

平成26年度事業報告及び平成27年度事業計画

ふるさと納税による POSA への寄付と年会費・入会金納入のお願い	 P25
平成26年度事業報告・平成27年度事業計画	 P28
御支援頂いた方の一覧表	 P29
POSA理事・監事名簿・POSA会員・POSA規約(一部抜粋)・入会のお願い	 P30

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

Project Operation Sight for All



『花鳥風月とJ A Z Z』

POSA理事長 医療法人 輝秀会 理事長
倉富 彰秀

Project Operation Sight for All



バングラデシュでの第15回目の眼科医療援助事業も無事終了しました。

今回の症例数は総数123眼で、例年の如く全例に眼内レンズを挿入致しました。問題となる合併症もなく全員経過良好と現地ドクターから報告を受けております。

今回もエンゼル協会の皆様、神埼ライオンズクラブの皆様、POSA会員の皆様、ご寄付頂いた皆様、御参加の皆様、全てのご援助頂きました方々に感謝申し上げます。2014年12月21日～12月23日に手術を行なっております。

詳細は次ページをご参照下さい。

最上段 スクリーニング数(地区別)

2 段目 手術適応とされた患者さんの数(地区別)

最下段 実際に手術を施行した患者さんの数(日にち別)

次ページの表で分かりますように、術前のスクリーニングを6ヶ所で1029名に行ない、手術適応と思われる150名をピックアップ致しました。期間中に150名中123名の方が来所されましたので、この方々に対して手術を行ったという事になります。

参加者は28ページの如く、総勢18名。

執刀は前半が日本人ドクターの井上先生と堀先生、

及び現地ドクターのミジャン先生の3名、後半が私と現地ドクターのミジャン先生の2名。さらに井上先生の同級生のドクターである枝光先生と砂原先生に前後半それぞれに、助手としてオペ室に入って頂き貴重な体験をして頂きました。

これまでインドを含めて20年間眼科医療援助を行なってきた中で、今回初めて中国の航空会社を使つての移動にチャレンジしました。往復共に天候に恵まれ雲ひとつない往路及び復路だったのですが、ORTの吉田さんと大学生の西本さんが乗った飛行機が名目は天候不良との事で他空港に一時着陸した為遅延し、4泊の内3泊を中国国内、1泊のみバングラデシュ宿泊となつてしまいました。中国国内で大変なストレスと危機感を感じさせてしまい申し訳なく思っています。

今後、中国のキャリアを使う事は二度とないと思います。今まで通りバンコク又は香港経由でのダッカ入りを予定しております。

航空券代とサーチャージ合わせて総額5万円からという低価格につられて申し込んでしまい、多くの参加者の方にストレスを感じさせてしまった事を巻頭言にてお詫び致します。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

15th Eye Camp of POSA-2014

International Angel Association

Konanari, Gazipur

20/12/2014-24/12/2014

Patients Screening Program

Sl.	Date	Place	Male	Female	Total pts
1	15.11.14 Saturday	Boribari Health Care Center Kapasias, Gazipur	100	150	250
2	22.11.14 Saturday	Community Library-2 Amraid, Kapasias, Gazipur.	76	129	205
3	29.11.14 Saturday	Al-haj Abdul Aziz High School Sonmanias, Kapasias, Gazipur	50	80	130
4	6.12.14 Saturday	Community Library-3 Uttar Khamer, Kapasias, Gazipur	64	79	143
5	13.12.14 Saturday	SAMAS Deaf School Bashbari, Sreepur, Gazipur	46	98	144
6	Nov.'14 3 days	Health Care Center, Konabari, Gazipur	71	86	157
		Total	407	622	1029

Selected Patients for Operation-150

Sl. No.	Name of Place	Male	Female	Total
1	Boribari HCC, Kapasias, Gazipur	21	11	32
2	Amraid office, Kapasias, Gazipur	17	9	26
3	Al-haj Abdul Aziz High School	6	2	8
4	Eidgah, Kapasias, Gazipur	9	12	21
5	SAMAS, Sreepur, Gazipur	10	16	26
6	HCC Konabari	15	22	37
	Total	78	72	150

Final Operation of POSA 15Th Eye Camp-2014

Sl. No.	Date of Operation	Male	Female	Total
1	21-Dec-2014	29	17	46
2	22-Dec-2014	17	23	40
3	23-Dec-2014	18	19	37
	Grand Total	64	59	123

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

さて「花鳥風月とJAZZ」。

花鳥風月とは読んで字の如く、花を愛で鳥の囀り(さえずり)に耳を傾け風の音に心騒がせ月の光に人生を感じる。風流である。ある意味人生に達観した人のみが感じる事ができる境地ともいえる心理状態ではないかと思っている。音楽に例えるとボーカルのないジャズや即興のジャズ、クラシック音楽、これが花鳥風月にあたるのではないかと思う。

例えばジャズであるが、私ははっきり言ってジャズが苦手である。苦手というよりも心地良くて寝てしまうというのが正しい。聞いているとそのうち寝てしまう。20年程前に福岡のブルーノートでハービー・ハンコックのライブを聴いた時もRock it以外ではほとんど寝ていたし、先日再来日した彼のライブをYou Tubeで聴いた時も再び寝てしまった。私は心地いいとすぐ寝てしまうらしい。たまに行く歯医者で歯石取りの為に診察台に横になった瞬間30秒程で爆睡してしまう。一度などは30分以上歯科の診察台の上で爆睡したまま放置されていた事もあった。その点では足裏マッサージ中に寝てしまうのと同じである。乱暴に言えば、ジャズで寝てしまうのも、歯医者で横になって寝てしまうのも、足裏マッサージ中に寝てしまうのも、寝てしまうという点でみんな同じなのである。

だから、ジャズやクラシックは音楽を極めた人のみが

魅力を感じる事ができるジャンルではないかと思っている。ただし、ジャズのなかでもスタンダードナンバーと言われる曲は別だ。ボーカルとメロディーがあって、しかもメロディーラインが美しく、歌詞に心打つ内容がある場合に限っては、その曲に対してドキドキするので、聴いていて寝てしまう事はない。そんな私からみると大学の同級生で佐賀で開業の北川君や河野君のJAZZ音楽に対する姿勢には感心する。御両人は、地元FM放送局(えびすFM 89.6Mhz)で第2・4金曜日の夜8時から大人なDJぶりを発揮している。番組名は「JAZZ de NIGHT」。

ジャズと言えば、昨年中州JAZZフェスティバルでFried Prideという2人組が路上で歌ってくれた「smile」。チャーリーチャップリン作詞作曲の名曲を聴いていたく感動してしまった。まずメロディーが美しく、歌詞の内容に深みがあり、ボーカルの歌声が素晴らしかった。さらに、それを支えるギターの本一本の弦の響きに緊張感があり、一泊一人うん万円の高級旅館で出される美味しいコース料理をあつあつで食べているような気分になった。

この「smile」という曲の歌詞が素晴らしいので次ページに示します。

メロディーはYou Tubeで。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

Smile

Smile, though your heart is aching

笑って たとえどんなにつらくとも

Smile, even though it's breaking

笑って たとえ心が折れそうでも

When there are clouds in the sky, you'll get by

雲で空が覆われていようとも抜け出せる

If you smile through your fear and sorrow

不安におびえ悲しみ嘆く時も

Smile and maybe tomorrow

笑っていればきっと明日には

You'll see the sun come shining through for you

太陽の光がきみを照らすから

Light up your face with gladness

生きる喜びで顔を輝かせ

Hide every trace of sadness

悲しみの傷を消してしまおう

Although a tear may be ever so near

たとえ涙がこぼれそうになっても

That's the time you must keep on trying

そんな時だからこそ笑顔を絶やさずに

Smile, what's the use of crying?

泣いていても何も始まりはしない

You'll find that life is still worthwhile

笑顔でいれば“人生、捨てたもんじゃない”と思うときが

If you just smile...

必ず来るから...

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

最後にふるさと納税についてお話させていただきます。

先日、POSAが佐賀県のふるさと納税の対象団体として指定されました。

住民税の20%までなら実質の自己負担2,000円のみでPOSAに寄付して頂く事ができる素晴らしい制度です。しかも、ここが最大のポイントですが寄付金のほぼ全額(寄付金から2千円を引いた額)が1年後に戻ってくるのです。(正確には翌年の住民税がその分減免されます。)

もちろん、住民税の20%を超える金額をふるさと納税を利用してPOSAにご寄付頂ける場合は、通常の寄付金控除が受けられます。(所得の40%までが所得控除となります)

もしふるさと納税でPOSAを指定してご寄付頂いた場合は、ふるさと納税1万円につきバングラデシュの特産品である※ノクシカタを一個進呈致します。例えば、10万円のふるさと納税をPOSAを指名して寄付をして頂いた方

には10個、100万円のPOSAへの寄付をして頂いた方には100個のノクシカタを進呈致します。

このノクシカタという特産品はバングラデシュの伝統刺繍で、現地の女性の収入源にもなり、現地エンゼル協会の子供達の学費にも充てられます。

またPOSAにふるさと納税として頂いた寄付金はアイキャンプにて現地の白内障手術の為の経費に充てられます。収支はPOSAのホームページでも公開し経理の透明性を保っております。

ぜひ、ふるさと納税でのPOSAへの御寄付をお願い致します。

詳細な手続き方法については25・26ページをご参照ください。簡単です。

※ノクシカタ:バングラデシュの民芸品。象をデザインした小物やバックが人気。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『POSAアイキャンプに参加して』 POSA副理事長 医療法人 菊池眼科 理事長 井上 望



POSAアイキャンプも21年目となりました。インドでの7回に続いて、バングラデシュでの活動は今回が15回目となります。アイキャンプに参加しなければバングラデシュに来ることも生涯無かったと思います。アイキャンプ参加によりバングラデシュで感じた事を書いてみました。

☆バングラデシュは人と車で溢れている

人の多さは以前からですが、車については15年前、初めて来た時よりは明らかに渋滞が激しくなっています。最初は列車の貨車やバスの屋根に人が乗っているのを見てびっくりしましたが、今では慣れてしまいました。

☆バングラデシュの人々はみんな優しい。

これはエンゼル協会を通じて知り合えた一部の方々についてではありますが、とにかく優しいのです。この優しい性格は日本人として共感出来るものがあります。

☆イスラム教は怖くない

バングラデシュ人はほとんどがイスラム教徒です。日本にいと、イスラム過激派のニュースが頻繁に報道されるため、イスラム教に対して誤った印象を持つ人が多い様です。一部、イスラム教を人集めの道具とした過激集団が存

在しますが、それは異教徒はもちろん、他のイスラム教徒からの支持さえ得てはいません。

☆イスラム教徒は信仰心が厚い

1日5回のお祈りやラマダンの断食等、生活がイスラム教を中心に廻っています。クリスマスや新年の西暦は西洋の基準であり、イスラムの世界では関係ありません。生活と関係するラマダンや犠牲祭、巡礼があると患者さんも自分の手術どころではありません。

☆公務員の腐敗度はまだまだ高そう・・・

私はバングラデシュ出国時、大量の紅茶をお土産としてスーツケース一杯詰め込みます。そのため、麻薬と勘違いされるのか、出国の荷物検査では必ずバックを開けさせられます。その時、しばしば空港係員に賄賂を請求されます。もちろん、お金の支払いを拒否してその場は切り抜けられますが、事情が分からない人は(特に日本人は)払ってしまう人が多いと思われます。

日本と異なる様々な経験ができるバングラデシュだからこそ、アイキャンプをより魅力的に感じる事が出来ます。感謝、感謝！



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『続けることの価値』

特定非営利法人 国際エンゼル協会 事務局長
前田 泰宏



2014年12月21日から25日にかけてPOSAのアイキャンプが行われ、123名の白内障の患者さんによどみの無い光が差し込みました。倉富医師を始め日本で眼科治療を行っている皆さん、医学を目指している学生たちなど多くの日本の人たちがバングラデシュに関心を持って訪れます。また、貴重な時間とお金を使って来られています。その活動には本当にいつも感心させられます。そのアイキ

ャンプも15回目を数えました。私たち国際エンゼル協会のバングラデシュの活動もそうですが、続けることが如何に大変なことかまた価値あることかと思います。本協会も今年30周年を迎えますが、POSAのアイキャンプも本協会とお互いに協力し合い、今後も続けていかれ、バングラデシュの白内障で苦しんでいる人たちの希望になることを願っています。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『見えることの喜び』 国際エンゼル協会 バングラデシュ責任者 アジズル・バリ



先月、ガジプル県のカパシアへの奨学金のプログラムが
終わった帰り道にマンナンさんと出会いました。彼が「日本の
皆さんはお元気ですか」と声をかけてきました。誰だろう
と考えていると、「日本の眼科の先生のおかげで見えること
ができ、ほんとうにありがとうございました。」と言うのでや
っと白内障手術を受けた患者さんだと気づきました。

2001年から2014年までPOSAのご協力で1891人の
村人の白内障の手術をしていただきました。

バングラデシュは農業国でお米を収穫して頭にお米を
のせてうちへ運んでいく時、また脱穀する時にお米のみ
殻で目をよく傷つけてしまうことがあります。その時はなん
ともないと思っても、あとでいつか目の病気になってし

まいます。

また、ビタミンAを子どもの時から吸収してないと大人
になってから目の病気になりやすいです。最近バングラデ
シュでも、国のプログラムで学校の子も達に毎年ビタミン
Aを配布して、子ども達に飲ませる運動が始まりました。

毎年POSAの医師たちの努力で、白内障で目が見え
なくて困っている人たちが手術をして見えることができる
ようになりました。村に行くとその人たちが笑顔でよく声を
かけてくれます。そして、「日本の医師の皆さんは元気です
か。本当に感謝しています」と話してくれます。その村の人
たちに代わって心から感謝を述べたいと思います。これか
ら引き続きよろしくお願い致します。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『アイキャンプ活動(バングラデシュ眼科医療援助事業)と神埼ライオンズクラブ』

神埼ライオンズクラブ会長

竹下 賢



POSA2014年度アイキャンプ事業が無事達成出来て大変嬉しく思っています。

我々神埼ライオンズクラブとアイキャンプとの関わりは古く、多くの先輩方の努力で今日へと続けられました。この事業に携われることを光栄に思い、この事業の継続と拡大を願い、ライオンズクラブ国際協会の理念を全うしたいと考えております。

バングラデシュでは幼小児期の慢性的な栄養不足で白内障を患っている人が多くいます。その人達の多くが手術費用を負担できず、手術を受ける機会が得られずに光を失っているのが現実です。

アイキャンプではこのような方々へ白内障の手術を行い、視力を取り戻してもらうと共に、現地医師と協力して手術を行う事で現地医師の技術の向上にも寄与することが

出来ています。これらの活動は現地の方々に高く評価を頂いており、337-C地区、神埼ライオンズクラブの会員である倉富医師がアイキャンプ全体に渡るマネージメント及び実際の手術を行われました。

現地ホストクラブであるセントラルライオンズクラブメンバーの協力のもと白内障患者さんへの告知、スクリーニング時のお手伝い、白内障手術時の手伝いをして頂きました。

以上のように、国際援助事業はバングラデシュの人々の未来への道標となって花開いていると確信を持っています。

理事長である倉富医師と副理事長である井上医師をはじめとして、アイキャンプ活動に参加する医療支援スタッフの御健勝と御活躍を願っています。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『初めてPOSAに参加して』

えだみつクリニック 院長
枝光 理



SNS を始め、懐かしい同級生と連絡が取れるようになってきた頃に井上君からPOSAの情報が届いた。学生さん達も参加出来るとのことで、私の子供達もいずれ参加させてもらおうと思い、まずはどんなものかを見ておきたい、と参加を打診。快諾を得たため、準備をしているうちに、いつの間にか子供達も一緒に行く事になってしまった。

仕事、学校の都合で、子供達とは別便である。私は井上君と羽田で待ち合わせをして、深夜便でタイ経由バングラデシュへ。

出発ゲート前で一緒に搭乗手続きの列に並んでいると、「ごめん、僕はこっちだから、、」と彼はビジネスクラスへ。旅慣れた彼は、マイルとやらを使って快適なシートを

ゲットしたらしい。

タイ国際航空でバンコクに到着、長い乗り継ぎ待ち時間の後、バングラデシュへ。ダッカ空港で中国経由組(私の子供達はこちら)と合流し、現地施設へ。

初めてのバングラデシュは、多くの参加者が述べておられる通り、車車車人人人自転車自転車自転車バイクバイクバイククラクションクラクションクラクション、で圧倒される。日本で耳にするクラクションの一生分を一日で聞いた気分。善し悪しは別にしてエネルギーギッシュ！

施設では子供達や現地スタッフが歓迎してくれるが、到着直後から翌日の手術の準備、患者さんの術前検査とゆっくりする暇はない。1年ぶりに動かす機器は調子が悪いものがあったり、また、飛行機が遅れ予定通り到着



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

できなかった参加者がいたり、てんやわんやである。

翌日は朝食後最終セッティングから早速手術へ。私は助手の仕事を手伝わせてもらう予定なので、まずは見学させてもらう。白内障の手術を見るのも初めてなのに、いきなり助手。日本では考えられないことである。遠くから見学しても大してわからないまま、本番へ。教えてもらいながら、とにかく手順を覚え、術者が必要な器具をタイミングよく渡す、を必死に覚える。微妙に形の違う器具などは最初見分けがつかず苦労したが、何とか覚えてきたところで、術者が交代。が、なんと、術者によって使う器具が微妙に違う！さらに必死な時間は続く。こんなに頭と神経を使ったのは久しぶりである。疲労困憊して1日が終了。夕食のカレーの美味しかったこと。

直前まで知らなかったが、大学の同級生の砂原君も後半に来るとのことだった。久しぶりの砂原君はあまりにも貫禄がすぎて、学生の頃の印象はすっかり消えていた。(と言えば多少聞こえはよいが、ようは、横方向にサイ

ズアップ、ということ)彼とは卒業以来話したことはなく、最終夜は3人のプチ同窓会で楽しいひと時を過ごす。

帰りも井上君と一緒にだったが、またもや彼はビジネスクラスへ。慣れない仕事をしたせいもあってか、腰痛で帰りのフライトはほとんど眠れないまま、朝8時に日本に到着。井上君は急いで帰ってそのまま仕事をするという。なほ、ビジネスクラスも納得。

慌ただしく過ぎ去ったバングラデシュの日々。とにもかくにも、日本にいては経験できない密度の高いものであった。言葉が通じない中でも患者さんのドクターに対する感謝を感じとれる瞬間もあり、医療人として忘れそうになっているかもしれない、いや、忘れてはいけないものを思い出させてもらった気がする。

末筆になりましたが、井上君、堀先生、つたない助手で申し訳ありませんでした。また、倉富先生はじめ、皆様には、子供ともども大変お世話になり、ありがとうございました。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『アイキャンプ参加の感想』

阿久津医院 眼科医

堀 秀行



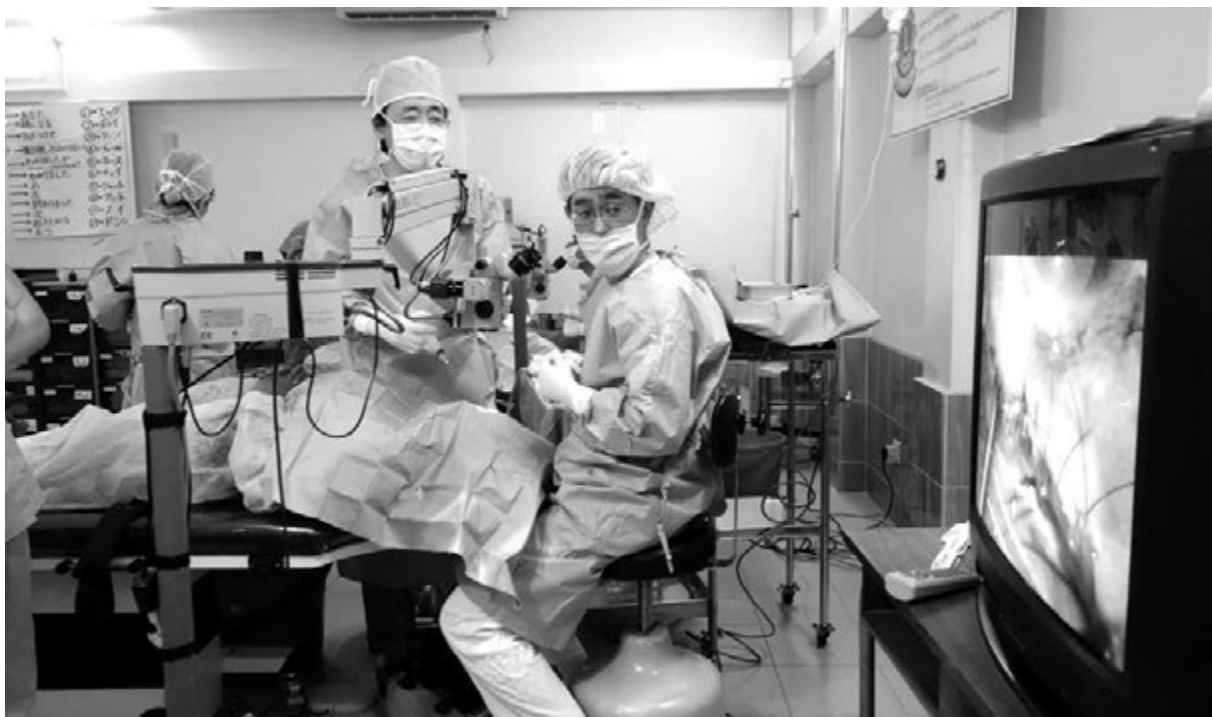
10年ぶりにパスポートを更新し、数えてみると今回で7回目のアイキャンプ参加です。

12月20日にダッカ空港に降り立ち、中国経由でダッカ入りする一行と合流する予定でした。ところが、乗り継ぎのトラブルで、到着するはずの視能訓練士の吉田さんのダッカ到着が1日遅れるとのこと。

井上先生から、現地においてあるオートレフ・ケラトメーターが故障しており電源が入らないことを知らされました。眼科の関係者ならば、このことがどれだけ大変なことを意味するかは推察できると思います。専門でない方にもわかるように書くと、眼内レンズの度数を決めるためのパラメーターである角膜の屈折力が、自動で測れなくなることを意味します。ではどうするかというと、手動の器械で、角膜に投影される薄暗い反射光を手がかりにひとりひとり時間をかけて測らなくてはならないのです。(当

然、オートレフ・ケラトメーターが普及する数十年前は日本でも手動で測定していましたので、研修中の大学病院の病棟の倉庫で手動のケラトメーターを見たことはありますが、自分は使った経験はありません)。オートレフ・ケラトメーターでは、ほんの一瞬で測定が終わりますが、手動では、一人測定が終わるのに、言葉の通じない相手ではどんなに熟練した検査員でも最低10分はかかります。手術が必要な患者さんはおよそ100名、吉田さんがいないので、どうなることかと。手術前から暗澹たる気持ちでした。

ところが、現地に到着してダメもとでオートレフ・ケラトメーターの電源を入れると、どういうわけか一発で起動するではありませんか。普段の行いがよかったためか、ミラクルが起きて、1日目の手術患者さんおよそ45名の、ケラト、眼軸長の測定を井上先生とともにに行い、何とか1日



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

目を終えました。

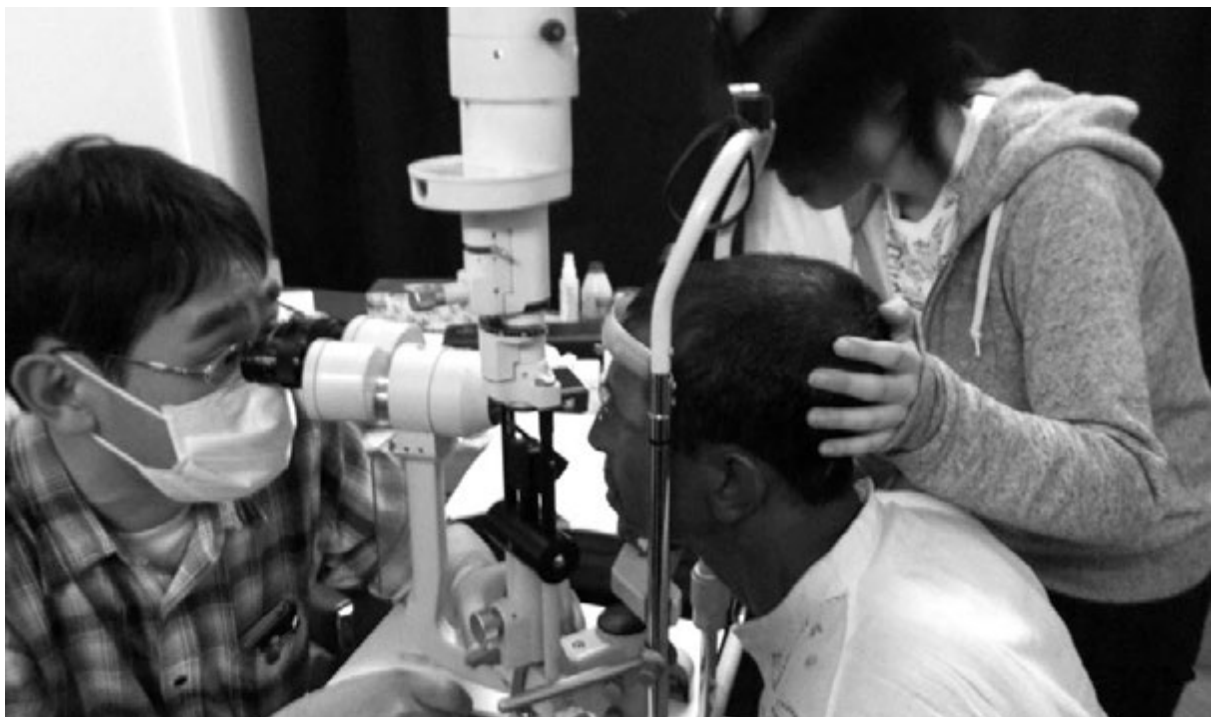
翌、21日は白内障手術です。やや古い機種ながらも超音波手術器械が準備されていたので、ほぼ日本と同じような条件で手術ができると思ったのですが、白内障手術をするときの傷口の大きさは、器械の推奨サイズに合わせる必要があります。器械の推奨切開幅は2.8mmですが、現地においてあったナイフの幅は、なんと2.5mmでした。やむを得ないので、2.5mmの切開を若干拡張してなんとか手術することは可能でしたが、切り広げた手術創の幅はさまざまで、手術中の前房はとても不安定でした。いかに日本では、良い条件で手術しているかということが、身にしみて感じました。

次の22日も手術ですが、若干の誤算が生じました。前日に、水晶体の核が硬い患者さんは、水晶体囊外摘出のMizan先生の列に、水晶体の核の硬化度があまり進んでいない患者さんは我々の列に並んでいただく算段でした。ところが、水晶体囊外摘出のMizan先生が昼休みに中座したきり、なかなか手術室にもどってこられません。結局、本来はMizan先生に執刀していただく核の硬

い患者さんの何人かを、超音波乳化吸引術ですることになりました。日本では患者さんと言葉も通じますし、顕微鏡もよく見えますので、少々核が固く乳化吸引に時間がかかったとしてもどういうことはありません。万が一、破囊して水晶体の一部が硝子体中に落下したとしても、時間はかかりますがその場で治療することができます。ところが、手術室にはオビソートさえないとのこと、絶対に失敗は許されません。心臓バクバク、額に冷や汗かきながら、なんとか無事に手術を終えました。

23日は、前日の手術の患者さんの診察を早朝に終え、後半の倉富先生ご一行にバトンタッチとし、帰国の途につきました。

バングラデシュは新興国として、非常に発展に勢いのある国です。毎回行くたびに、建物が高層化し、市街を歩き交う車や人々の生活水準も少しづつですが向上しているように思います。しかし、まだまだ白内障のような治療可能な病気で失明状態にあるかたがたがいっぱいいるのも現実です。眼科医として、微力ながら、これからも協力していきたいと思っています。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『今年は往路に2日かかりました』

くまもと森都総合病院 視能訓練士

吉田 幸代



POSAのアイキャンプに参加させていただくようになって今回で4年目となりました。今までは困ったことやトラブルなどなく、参加期間中はいつも快適だったのですが、今回飛行機の乗り継便に乗り遅れ、中国国内で予定外に1泊しました。飛行機での移動にトラブルはつきものです。今後同様の事態が発生した時のために、何が起こりどのように対処したのかを報告します。

まず私達は福岡空港に集合し、北京に向かいました。全員で9人でした。この時も飛行機の到着が遅れ、ホテルに到着するのが夜遅い時間になってしまいました。次の日は早朝にホテルを出発しました。私と西本さんはアイキャンプへの申し込みの時期が遅かったので直行便のチケットがとれず、北京から国内線で昆明まで行き、そこで出国手続きをしてバングラデシュ行きの飛行機に乗り換える予定になっていました。私達2人は他の7人と分かれ国内線から飛行機に乗りました。

飛行機の中で寝っていると西本さんが「なんか皆が騒いでいますよ」と起こしてくれました。なんだろう？と思っていると「視界不良のため昆明空港へは着陸できない。代わりに近くの空港に向かいます」とアナウンスがありました。CAさんを引きとめて乗り換えがあることを伝えても「No Problem」や「I don't know」と答えるだけで明確な返答が得られませんでした。また英語もあまり通じず不安

になりました。

そうしているうちに飛行機は近くの空港に着陸しました。ここで給油をして昆明空港に戻るとのことです。この時点で乗り継ぎ便には間に合わないだろうと思ったため、タイの空港にいらっしゃるはずの井上先生に携帯電話からショートメールで連絡を入れました。すぐに先生から返信があったので電話をかけて事情を説明しました。今日中にバングラデシュに到着することはあきらめ、今後やるべきことを整理し、手帳に「振り替便の交渉・ホテルの手配」と書きとめました。

その後昆明空港に戻ったのですが、乗り継ぎのある乗客に今後の手続きについて説明や誘導してくれる職員は誰もいませんでした。私達は広い空港内で迷いながら航空会社のカウンターを探しました。やっとの思いで対応してくれるカウンターまでたどりつき明日の同時刻のバングラデシュ行きの飛行機をとってもらいました。ここで、「ホテルはそちらで準備してくれますか？」と尋ねたところ準備しますとのこと、さらにホテルまでのバスも出してくれるとのことでした。今夜の宿が決まり、明日にはバングラデシュまで行けることになってホッとしました。

バスを待っている間に福岡から一緒だったネパール人の男性と会いました。彼とは北京の空港で少し話をしていた、福岡県内の大学に留学中で冬休みなので国に



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

帰省するのだと話していました。その時の印象は日本語も上手で、感じの良い好青年でした。その彼もまた乗り継ぎ便に間に合わず昆明で一泊することになったようでした。ホテル行きのバスが来たのでバスに向かって移動していると、ネパール人留学生がこちらに来て「僕の知り合いのホテルに行こうよ」とのこと…。このような状況で、海外で、いや日本国内であっても、知らない人には絶対についていってはいけません。その人がどんなにいい人に見えても、たとえ日本人であってもただ単に空港内ですれちがっただけの人です。絶対についていってはいけません。私は「大丈夫、大丈夫だから私達のことは気にしないで」とだけ言って、前を向いたまま振り返らずにバスに乗り込みました。心優しい日本人としては失礼な態度をとったのではないかと、気分を害されたのではないかと思います。きつぱりと断りその後はさっぱりと忘れましょう。

ホテルへの途中、バスから見える景色は民家の庭先にヤギやニワトリがいて、農民の方が畑仕事をしているようなのんびりとした田舎でした。空港から15分位の場所にホテルがありました。こちら4-5軒のホテルと土産物屋やレストランがあるだけで人通りも少なく、車の代わりに馬車が走っていてさみしい感じがしました。

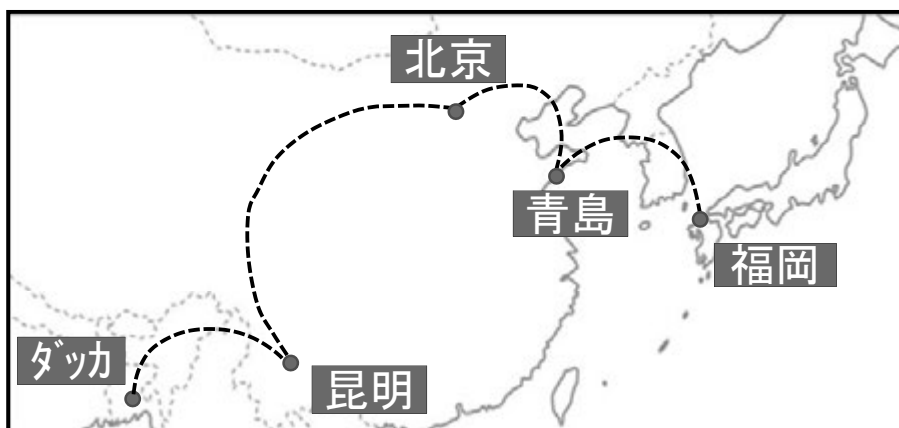
私達は預けたスーツケースを受け取ることができず、機内持ち込みのハンドバック一つのみを持ってホテルに移動してきたのですが、持っていて良かった物や無くて困った物としては、連絡用のスマートフォンと充電器、コンタクトレンズ用品、簡単化粧用品、下着類、暇つぶし用

の本やゲームです。これらの物は緊急用に手荷物として持ち込んだ方が良かったと思います。また私達は多少の元（中国の通貨）を持っていたので水やパンを買うことができましたが、同じバスでホテルに来た人は銀行や両替所がなくて困っていました。空港で両替をしておけば良かったと言っていました。

夕食後（夕食と朝食はホテルにて無料提供がありました）部屋にいますと、井上先生から手動式のケラトメーターの使い方を教えてほしいとメールがきました。昨年、私が参加出来ない時に使ってもらえればと思い、使い方を示した簡単な説明書を作っておいてきていましたので、そのことを井上先生に伝えました。

次の日は朝からバスに乗って空港に向かいました。今日は無事に到着できることを祈りながら飛行機に乗っていましたが、何事もなくバングラデシュの空港まで到着することができました。到着ロビーへ出ていくとエンゼルハウスの前田さんが「吉田さん!」と名前を呼んで出迎えてくださいました。知っている方の顔をみることで安心しました。

今回は飛行機のトラブルにより1日遅れの参加になりました。大事には至らず無事に到着できたとはいえ皆様にはご心配ごとと迷惑をおかけいたしました。到着してみると術後の患者さん達が「見える! 見える!」と目に涙をうかべて喜んでいらつしやったり、術前にはほぼ失明状態で歩くこともままならなかった方が、しっかりと一人で歩いていらつしやったりと、心から感動する場面に沢山であうことができ、今年もここまで来て本当に良かったなと思いました。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『POSAに参加して』

東海中央病院 看護師

各務 晃子



兄からPOSAの活動について耳にしており、少し興味がありました。

現在仕事場においてバングラデシュの方々と接点があることも関係し、その方々の育った環境はどんなものなのだろうという思いが沸いたことで、今夏の参加に対する期待感が更に増していました。

「じゅうたいがすごいですね。ほこりもすごいです。水にはきをつけてね、ニホンとちがうから。」

簡単なアドバイスのもと実際に行ってみると、尋常でないホコリの多さに驚かされました。視界が黄色っぽく全体的にボヤッとくすんだ感覚が、看護学生の頃に受けた「高齢者体験」を思い出しました。視界が保たれない不快を感じると同時に、白内障による視覚障害のことを想像すると、バングラデシュのような人ごみや大渋滞の中で生活するには大きなハンディだと思いました。不便なうえ、安全に生活することすら大変なことだと知らされました。

また、今回は初めてのPOSA活動参加でしたが、初めてのOPE室体験でもありました。「外回り」「器械だし」等、現

在所属している部署では体験できないことをさせていただきました。普段の仕事ではOPE中に関わることはほとんどありません。OPEを控える患者さんの表情や動作から緊張感が伝わってくるのがわかりましたが、気遣う言葉掛けができず、「どうして時間があつたのにベンガル語の勉強をしてこなかったんだ!」と後悔したのを覚えています。この失敗体験は意味あるものでしたし、ちょうど自身の仕事場では異動の時期と重なり、「オペNsもいいかなあ」と感じる自分もありましたので、新たな自分発見という面においてとてもいい体験でした。

最後に、日本ではあたりまえのように受けられる医療がバングラデシュではそうではない事を知り、生まれた国や場所によって不公平がある状況に考えさせられるものがありました。“Sight For All”、この言葉が、この活動を支える皆さまの願いであることを深く実感できました。短い時間でしたが一員として貴重な活動をさせていただきありがとうございました。「今の自分にできることはなにか」を考える機会にもなりましたことに感謝いたします。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『アイキャンプに参加して』

西南学院大学 国際経済学科 3年

富永 杏花



今回このような機会をいただいて本当にありがとうございます。

わたしはアイキャンプで、とても印象に残っていることがあります。バングラデシュに着いて二日目に、人生で初めて手術室に入らせていただきました。手術するにあたって、あるひとりのおばあちゃんが、とても怯えている様子だったので、私は少しでも安心してもらえるように、と側でおばあちゃんの手を握りしめていました。強く握りしめる手からおばあちゃんの緊張が伝わってきました。手術が終わったあともおばあちゃんは、まだ少し不安が残っているような顔で手術室を出て行かれました。

翌日の術後の説明会に、患者さん達を案内している時に、前日のそのおばあちゃんにも連れ添うことになりました。

「Can you see?」と聞いてみると、おばあちゃんは目に涙をためて嬉しそうに笑って手を握って、頷いてくれました。手術中の時の緊張ではなく、喜びが伝わってきました。気にかけていたおばあちゃんということもあって、本当に嬉しくて、それだけでもう今回のアイキャンプの参加を有意義なものにすることができたと思いました。

エンゼルハウスの子ども達は、とても純粋で優しく思いやりに溢れていました。元気いっぱい、「sister!sister!」と慕ってくれるあの子たちの笑顔にいっぱいエネルギーをもらいました。いっぱい甘えてくる子ども達に少しでも自分の愛情が伝わっていればいいなと思います。いつまでもキラキラした皆でいてほしい、そのために自分にできることを見つけて少しでも力になりたいです。

バングラデシュは最貧国の一つで、大学のゼミのテーマの一つでもありました。どんな国なのか、自分で見てみたいという気持ちもあり、今回参加させていただいたのですが、自分の想像力の乏しさもあり、思い描いていた状況よりも、リアルは正直シビアなものでした。整備されていない交通状況、道沿いの大量のごみ、それに群がる犬、猫、うし、カラス…窓の外の景色から目が離せませんでした。そこで生きる人達の生きる力にも、自分の生き方の生ぬるさも感じました。

今回のアイキャンプ参加でたくさんの刺激を受けました。この経験を忘れずにこれからの自分の人生に生かしていきたいです。本当にありがとうございました。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

Project Operation Sight for All



『アイキャンプに参加して』

立命館大学 法学部 1年

西本 千紘

Project Operation Sight for All



今回初めてアイキャンプに参加させていただきました。以前から何かボランティアをしてみたいと考えており、母からアイキャンプに行ってみたら？と言われたので参加しようと思いました。前半だけの参加だった上に途中トラブルがあったため、バングラデシュに滞在できた期間はとても短かったです。でも、とても内容の濃い時間になりました。たくさんの経験をする事ができたうえに、海外というものを自分の目で見る事ができました。

今回のボランティアが自分にとって初めての海外でした。不安でいっぱいでした。何もかも日本と違って驚きの連続でした。途中の中国では飛行機遅延のため、乗り継ぎ便に乗ることが出来ず、しかも預けた荷物は、先にダッカに行ってしまったため、手提げバック一つで昆明に一泊することになってしまいました。吉田さんのおかげで何とか乗り切ることができました。本当に感謝です。トラブルにあった時は最悪って思いましたが、今となっては良い経験ができたな、と思います。中国では簡単な英語も伝わらなかったことが印象的でした。言語ももちろん大切ですが、伝えようとする姿勢が一番大切であるということが実際に海外に行くことで強く感じました。

予定より一日遅れでバングラデシュに到着しました。第一印象は空気が汚れている、でした。空港も日本と全く違ってカルチャーショックが大きかったです。中国でも緑茶

が甘いとか、みんな無表情とかいろいろカルチャーショックは受けました。この短期間で、日本の良さを改めて強く感じました。

空港を出て市街地に行くと車と人だらけでした。ルールなど無く、みんな自由に好きなタイミングで道を横断し、逆走していました。ここで生活するのは至難の業だと思いました。クラクションの音を一日であんなに聞いたのは初めてでした。バングラデシュの人たちは、みんな「生きている」感じがしました。みんな一日一日を大切にしている、精一杯生きている感じがしました。自分が失くしているもののような気がしました。

エンゼルハウスの子どもたちはみんな人懐っこくてとっても可愛かったです。とても元気で明るい子たちばかりでした。白内障の手術も近くで見学することができて感動しました。医学の素晴らしさに少しだけ触れられた気がします。患者さんの目が見えるようになり、感謝している姿を見ているととても温かい気持ちになりました。

バングラデシュの街も活気に満ち溢れており、日本では見ることのできない景色ばかりでした。短い期間でしたが自分にとって貴重な経験になりました。

このような素晴らしい機会を与えてくださった方々や現地のスタッフさん、皆様に心から感謝申し上げます。貴重な体験と時間をありがとうございました。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『2回目のバングラデシュ』

学校法人福岡成蹊学園 福岡外語専門学校 1年

今村 玲南



今回、私は2回目の参加をさせていただきました。初めて参加させていただいた時の楽しさ、感動が忘れられず今回の参加を決めました。

今回は中国経由でダッカに向かいましたが、乗り継ぎや移動が多く今までにない体験をさせていただきました。ダッカに着き、コナバリまで向かう車内ではエンゼルホームのみんなに再び会える喜びを胸に街中を撮影していました。前回最も驚いた交通量の多さは、2年前とほぼ変わらずものすごい量でした。エンゼルホームに着くと、2年前と変わらず子供たちが私たちを迎えてくれました。1人1人と握手をし、久しぶりに会うみんなの顔を見ていると思わず笑みがこぼれ、中には「レイナ」と名前まで覚えてくれていた子もいて、とても感激しました。

今年のアイキャンプは一般参加の学生さんが多く、夜にみんなで話したりと日本人同士の交流もでき、スムーズにオペのお手伝いも進みました。朝は子供たちと遊び、午後

はオペのお手伝いを積極的に行い、夜はまた子供たちと遊ぶという日々を送りとても充実した5日間を過ごすことができました。

また今回はエンゼルホームの外に出る機会があり、マーケットやデパートへ買い物に行き、市場やエンゼルスクールを見せていただき、リキシャに乗ることもできました。バングラデシュの日常を見ることが出来たような気がします。私は今回のアイキャンプを通して、笑顔と感謝の大切さを感じました。遊んでいる時の楽しそうな子供たちの笑顔、退院する時の患者さんからの感謝の言葉は幸せな気持ちにさせてくれました。周りの人々を笑顔にし、「ありがとう」と感謝してもらえる事をしていきたいなと思いました。

今回もたくさんのことを学び、得ることができました。このような機会をいただいたスタッフの皆さまに感謝申し上げます。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『バングラデシュ「らしさ」』 立命館アジア太平洋大学 1年 倉富 菜々



田舎に行けば行くほど交通ルールなんて関係なくなる。外を見れば見るほど日本との共通点を見出せなくなる。だからこそ、バングラデシュ「らしさ」が顕著に現れる。私はこのバングラデシュ「らしさ」を常に心地よく感じていた。

子供たちの夢はみんな一緒に、エンジニアか医者。家族を支えたい一心で、選択肢がほとんどない中を生きている。裕福な家庭に生まれたらそれだけでこの国では勝ち組だ、その勝ち組に挑むには勉強をして対等な良い職に就くしかない。自分の生まれた環境を真摯に受け止め家族のために働く謙虚な国民性なのだ。その中でアイデンティティを見出すかのようにカラフルな民族衣装で身を固めるのは小さな幸せなのか、自慢げに見せてくる姿は愛らしかった。

初めて訪れると同時に惚れ込んだ9年前のこの国に比べ、今は間違いなく国民の生活水準は上がったように思う。それが目に見えて分かるほどに。しかしノクシカタやジュード製品などバングラデシュ独自の文化が薄れていた。発展途上国という立場を利用され、海外から来た経営者により職を得ている現実を見た。

日本も加害者であることは違いない。これらの発展は本当に望まれていたのかを見極める必要がある。一概には言えないが、本当の意味での「発展」とは独自の文化を伝承してこそ認められるものではないのか。生活水準が上がる喜びの裏に、忘れられている大事なものは何か。「らしさ」とは何だろうか。私はバングラデシュの「らしさ」がどこかへ失われつつあることに危機感を感じた。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『新鮮で強烈なバングラデシュでの初体験』

佐賀県立佐賀北高等学校 3年

永瀨 李成



私は今回初めてアイキャンプに参加させていただきました。

出発前の一週間くらいはずっと「友達ができなかったらどうしよう。」とか「邪魔ばかりしないだろうか。」など考えて不安ばかり積もらせていました。でも、どうにかしてでも誰かの役には立ってやる!という気持ちをもって臨みました。バングラデシュまでは北京で一泊しての経由でした。初?の中国!もう上空から見ただけで「ああ、中国だなあ」と思いました。なにせ土地の使い方が贅沢!やはり大国なので横広に使っても余るくらい土地が広がった!

バングラデシュに着くと砂煙やゴミなどが散乱していていかにも発展途上という感じで結構好きでした。(風情がある感じで)とにかく人が多くて、しかもみんな運転が上手だったのが印象的でした。

エンゼル協会の中は外とは一変して建物と木がとってもスッキリしていました。車から降りると子供達が私たち一人一人に花の首飾りをくれてお出迎えをしてくれました。

子供達と話をするのはとても緊張しました。とにかく名前が自分は覚えきれない!難しかったです。なんども「名前なんだっけ?」と聞いてしまうことが多々ありました。しかしたくさん遊んでいるうちにだんだんと名前も覚えていきま

した。

エンゼル協会内にいるとき、私は部屋にいるのがとてももったいなく感じ、なるべく部屋にいないようにしていました。子供達も一生懸命英語を使ってコンタクトを取ろうとしてくれました。自分の英語力のなさがとてもどかしく感じました。

エンゼルホーム到着後すぐ手術準備に取り掛かりました。術前検査を行ったり、手術室に入って手術の手伝いをしたりと、とても貴重な経験をさせていただきました。手術室に入ったり、術前後検査などをしたりと新鮮で刺激的な体験でした。アイキャンプでは学ぶことがたくさんあって自分を鼓舞し続けながら生活ができました。

海外に出てみて思ったことがありました。空港とかいろいろな場所で様々な民族の方や国籍の方々と触れ合うことで初めて日本人としての誇りというかどうありがたいかを感じました。そしてどう行動すべきかを考えました。

今回、たくさん貴重な経験をさせていただいた倉富先生をはじめ、先生方、アイキャンプのスタッフの方、現地のスタッフの方など、たくさんの方々に感謝をしています。そして、アイキャンプに参加させてくれた両親にも感謝しています。本当にありがとうございました。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『ドンノバ。』

学校法人都築育英学園リンデンホールスクール中高学部 高校2年

枝光 栞里



「ドンノバ」。ありがとうという言葉がこんなに心に沁みるのを人は人生のうちに何回経験できるのだろうか。手術を終えた患者さんにそう言われたとき、私はこんなことを考えました。

バングラデシュで過ごした日々は、思い返せば楽しいことばかりでした。子供達と遊んだり、手術のお手伝いをさせて頂いたり、バザールに出かけたり、他の学生と遅くまで話をしたり。普段やりたいと思っても、なかなか実現できないことがこの1週間には詰まっていました。

初めてエンゼルハウスに足を踏み入れたときに、花の首飾りで歓迎してくれた子供達。人見知りの私にも、見かけるたびに「Sister!」と抱きついてくる彼らの瞳はいつもキラキラしていて夢にあふれていました。こんな瞳に私もいつかなりたいな。そう思わせてくれました。

初参加で慣れない手つきの私に親切に指導して下さった方々のおかげで、手術室での体験も素晴らしいものに

なりました。高校生の私が目で手術をみるという体験もここでなければ、きっと出来なかったことです。

バザールは驚きの連続!カルチャーショックという言葉では表現できないほど。魚の量り売り、カラフルな野菜やスパイス、肉屋でみた牛の頭。今でも目に浮かびます。

他の学生さんたちとの会話も、思い出せば今でも笑いがこみ上げてきます。色んな学生さんとの会話は少なからず、私の人生に影響を及ぼしてくれたと感じています。

バングラデシュで過ごした日々は、ここでは書き表せないほど貴重なものでした。いつかまた「ドンノバ」と言われたい。まずは、自分の夢を叶えてから戻ってきたいと強く思います。

最後に、このような素晴らしい機会を与えてくださった倉富先生、全てを一から丁寧に教えてくださった亜由美さん、もたつく私を叱らずに、温かい目で見守ってくださった先生方、本当にありがとうございました。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

Project Operation Sight for All

Project Operation Sight for All

『バングラデシュの日々』

学校法人東明館学園東明館中学校 3年

枝光 輝

僕はどちらかというとこのキャンプへの参加をあまり楽しみにしてはいなかった。みんなの前では言わなかったが最初の二日間は本気で日本に帰りたと思っていた。だがエンゼルを出発するときはもっとここにいたいと思っていた。

そもそも僕は、とても行きたくてこのキャンプに参加したわけではなく、父が井上先生の手伝いに行くというので、そのついでのようなもので参加することになったのだ。そのため当然バングラデシュに最初ついたときはとても帰りたと思った。空港からエンゼルまで向かう車の中では町の様子に圧倒され死ぬのではないかという恐怖さえ感じた。今まで海外に行ったことがないわけではなかったが行ったことのある国はどこもきれいで、バングラデシュのような国には行ったことがなくとても衝撃的であった。

エンゼルについても最初はあまり快くは思わなかった。子供たちはみんなとても僕らを歓迎してくれてはいたが言葉はあまり通じず、翌日から始まる手術についても多くの不安を抱えていたからである。

僕の気持ちが変わり始めたのは三日目からであった。午前中は全体を通して最初の手術に僕は入った。父の仕事現場すらも見たことがなかった。そのため、当然医療の現場を実際目の当たりにするのは初めてで自分が周りの先生方に迷惑をかけないかがただただ心配であった。けれど手術の現場では、亜由美さんや父にたくさんのことを優しく教えていただき自分も役に立てたのではないかと今は思っている。

手術に入っていない時間は子供たちと過ごすことが多かった。最初は言葉が通じず本当に困っていたが向こうの子供たちは僕を見つけるなりすぐに「ブラザー」と言って僕をいろんな所へ連れて行ってくれた。すると不思議に言葉は全くと言っていいほど通じないはずの子供たちと過ごしている時間はとても楽しいものとなっていった。また僕はテニスをしているためそれと同系のバドミントンをしていることが多かった。他の国同士の人が同じ一つのスポーツを楽しめる、スポーツの素晴らしさも改めて感じる事ができた。

最終日の前日、僕たちは一日空いていたためみんなで街に行った。エンゼルを一步出ればそこはまるで別世界のようなであった。道路は整備されておらず街はゴミであふれていた。バングラデシュに着いてから三日が経っていたが最初に感じた恐怖感はその時も感じた。街で買い物をしているときに物乞いをする人々に僕は遭遇した。しかもそれはエンゼルにいる子供たちよりも幼かった。僕は、いかにあの施設の中が素晴らしい空間かを再確認すると同時にあんなに幼い子が物乞いをしているというバングラデシュの社会に直面した。

最後の日は朝から子供たちと遊んだ。出発のときの別れは本当につらくとても5日間とは思えないほどあつという間の時間であった。けれど最初に来た時のもどかしさはなくなっていた。

最初はあまり期待していなかったが今思ってみればとても貴重な一週間であった。最近では観光や旅行にはきれいな場所にしか行かないため、バングラデシュの様なところに行けたことはこれからの人生において絶対プラスになると思う。これから先もまた参加する機会があったら是非参加したい。最後に僕をこのキャンプに連れてきてくれた父、たくさんのことを教えてくださった先生方、そして何よりもこの一週間ずっと一緒だった学生のみなさん本当にありがとうございました。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



『初めてのバングラデシュ』 各務原市立那加第一小学校 6年 各務 日央里



バングラデシュでの一番の思い出は、バドミントンをしたことです。しかもとても強かったことです。私は普段、あまり外遊びをしないし運動は苦手ですが、言葉が通じなくてもバドミントンを一緒に楽しむことができました。私は何回も負けてしまいましたが、バドミントン部だったお母さんや大学生のお兄さんは、バングラデシュの子と勝負をして互角なのすごいと思いました。笑ったり大きな声を出したりしてとても楽しかったです。

食事ではカレーばかりでした。こんなにカレーが続くのは生まれて初めてで、「カレーばかりでつまらないな、お菓子が食べたいな」と思っていました。しかしおじさんの話によると、バングラデシュでは豪華でバランスのとれた食事だと聞いたのでびっくりしました。帰国してすぐに学校へ行ったら給食でカレーが出ましたが、食事がとれることにも感謝しながら生活しなくてはならないなあと感じた矢先だったので、大事に食べることができました。

勉強では私はいつも「めんどくさいな」とか「学校に行くの疲れるな」と思っていました。しかし、世界には学校へ行きたくても、勉強がしたくても家庭の事情や貧しいといった理由でできない人達があります。私はこのことを知った時、「勉強したくないなって言うてはいけないな」と思い、好きではないけれど、一生懸命にがんばろうと思いました。

今回、ボランティアらしいことはできなかったのに、いい食事やベッドを準備していただき、かえって悪いなあと反省しました。それに今まで、すべてのことが当たり前のことと思って過ごしていたので、日本との違いを知ったことで意識が変わりました。私はまだ12歳なので、貧しい国や人の助けになるようなことはできないけれど、同じ地球に生まれた仲間として、植林や手伝いなどのボランティアを自分のできる範囲でがんばっていこうと思います。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



「ふるさと納税によるPOSAへの寄付と年会費・入会金納入のお願い」



平素より POSA 活動のご理解ご協力有難うございます。
ご存知の様に POSA は皆様方の寄付金や年会費により活動しています。
この度、**POSA が佐賀県のふるさと納税の対象団体として指定されました**。つきましては佐賀県のふるさと納税制度を利用した POSA へのご寄付やお支払いが可能となりましたのでお知らせいたします。
※佐賀県在住の方でも寄付は可能です。

☆1.ふるさと納税は※寄付金控除の対象となります。

※寄付金控除とは納税者が国や地方公共団体等に寄付をすると受けられる所得控除と税額控除のことです。
※総所得の 40% までの寄付金が所得控除となります。

☆2.さらに住民税の 2 割までの寄付額については、有利な条件で控除を受けることが出来ます。

※ふるさと納税寄付金の 2,000 円を超える金額すべてが翌年の住民税から減免されます。
※確定申告もしくは「ワンストップ特例制度」の申請が必要となります。

ふるさと納税で **POSA** を指定してご寄付頂いた場合は、ふるさと納税 1 万円につきバングラデシュの特産品であるノクシカタ（バングラデシュの民芸品。象をデザインした小物やバッグが人気）を一個進呈致します。

例）3 万円の際のふるさと納税で **POSA** を指定して寄付をして頂いた場合：3 個のノクシカタを進呈致します。
このノクシカタという特産品はバングラデシュの伝統刺繍で、現地の女性の収入源にもなり、現地協力団体である国際エンゼル協会の子供たちの学費にも充てられます。

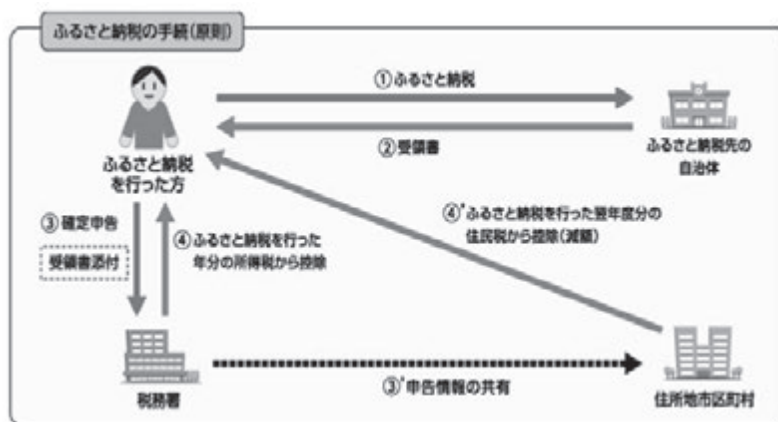
また **POSA** にふるさと納税として頂いた寄付金はアイキャンピングにて現地の白内障手術の為に経費に充てられます。収支は **POSA** のホームページでも公開し経理の透明性を保っております。

「ワンストップ特例制度」平成 27 年 4 月 1 日から適用。

寄付する際に申請書を要望すると送られてくる申告特例申請書に記入して返送するだけで自動的に「翌年の住民税」が控除され、確定申告が不要になる制度です。

「ワンストップ特例制度」の対象

- 寄付先の自治体が **1 年間に 5 箇所以内**の方。
- 平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日までにふるさと納税をしていない方。
- 寄付を行った年の所得について確定申告が不要なサラリーマンの方など。
(自営業者や高所得者、株式投資や医療費控除等で確定申告をされる方は適用外となりますのでそれらの申告同様に、ふるさと納税についても確定申告をされて下さい。)



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

ふるさと納税での POSA へのご寄付の方法

○クレジット決済ご希望の方

1. G o o g l e などのインターネットで「ふるさとチョイス」を検索
2. 「ふるさとチョイス」のホームページをクリック
3. 「地域でチョイス」をクリック
4. 「九州・沖縄」をクリック
5. 「佐賀県(NPO支援)」をクリック
6. 「この自治体に寄付を申し込む」をクリック
7. 会員登録がお済みの方は「ログイン」
会員登録をされていない方は「新規会員登録」もしくは「会員登録しないで進む」をクリック
8. ▼申込者情報に必要事項を記入
9. ▼寄付情報に必要事項を記入
10. ▼寄付メニュー（寄附金の使途）及びお返しの品で
「NPO法人 POSA」をコース選択で選択
「バン格拉デシュの民芸品ノクシカタ」か「お礼の品は不要」を選択
11. ▼その他に必要事項を記入
12. ▼その他 佐賀県へのメッセージの欄にご希望のノクシカタ（AかB）をご入力下さい。
ご入力がない場合はこちらで選んでお送り致します。
13. ワンストップ特例制度をご利用の方は、
▼その他 申請書の要望 ☐ 寄附金税額控除に係る申告特例申請書を要望するに必ずチェック
を入れて下さい。申告特例申請書が送られて来ますので、ご記入の上、必ずご返送下さい。
14. 「確認する」をクリックし、入力内容を確認する
15. 「送信する」をクリック →完了

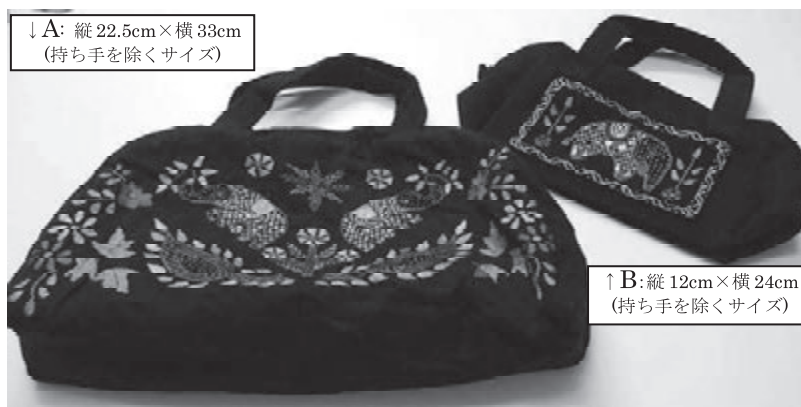
POSA会員にご入会頂いた皆様は、今後は入会金（10,000 円）や年会費（10,000 円）の納入もふるさと納税制度を利用されますと個人の自己負担は少なくなります。

入会金や年会費納入の場合は・・・▼その他 佐賀県へのメッセージの欄に「寄付金、入会金、年会費」のうち該当するものをご入力下さい。（複数可）

例：寄付金 30,000 円、年会費 10,000 円

○クレジット決済以外をご希望の方

1. G o o g l e などのインターネットで「ふるさと佐賀県応援サイト」を検索
2. 「佐賀県：ふるさと佐賀県応援サイト」のホームページをクリック
3. お申込みのご案内「NPO等の支援はこちら」をクリック
4. 「ふるさと納税お申込みフォーム」より振込先を選択
必要事項をご記入の上、お申込み下さい。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



平成26年度事業報告



〈バングラデシュ眼科診察

及びスクリーニングアイキャンプの実施〉

実施期間：平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

実施場所：バングラデシュ国インターナショナル
エンゼルアソシエーション（IAA）本部
クリニック施設にて

派遣員：現地眼科医及び現地助手

一般2名

大学生3名

専門学生1名

高校生2名

中学生1名

小学生1名

進藤圭一郎

倉富 菜々

西本 千紘

今村 玲南

枝光 栞里

枝光 輝

各務日央里

八木 隆明

富永 杏花

永渕 李成

〈バングラデシュアイキャンプの実施

及びビタミン配布〉

派遣期間：平成26年12月19日から平成26年12月26日まで

実施期間：平成26年12月19日から平成26年12月26日まで

実施場所：バングラデシュ国インターナショナル
エンゼルアソシエーション（IAA）本部
クリニック施設にて

派遣員：18名

眼科医3名

井上 望

倉富 彰秀

堀 秀行

医師2名

枝光 理

砂原 伸彦

看護師2名

各務 晃子

倉富亜由美

視能訓練士1名

吉田 幸代

対象患者数：123名

活動内容

今回バングラデシュアイキャンプも15回目となりました。現地の眼科疾患の症例及び1029名の患者さんを対象としたスクリーニングアイキャンプ及び123名の白内障手術を実施しました。

国内啓発活動

バングラデシュアイキャンプへの寄贈品、募金、参加の呼びかけ

バングラデシュの現状についての啓発活動

平成26年度事業報告書

平成27年度事業計画

〈バングラデシュ眼科診察

及びスクリーニングアイキャンプの実施〉

実施期間：平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

実施場所：バングラデシュ国インターナショナル
エンゼルアソシエーション（IAA）本部
クリニック施設にて

派遣員：現地眼科医師及び現地助手

〈バングラデシュアイキャンプの実施

及びビタミン配布〉

派遣期間：平成27年12月22日から平成27年12月29日まで

実施期間：平成27年12月22日から平成27年12月29日まで

実施場所：バングラデシュ国インターナショナル
エンゼルアソシエーション（IAA）本部
クリニック施設にて

派遣員：日本からの眼科医師及び看護師
現地眼科医及び現地助手

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



温かいご支援ありがとうございました。

平成26年4月～平成27年3月

敬称は省略させていただきます。(順不同)

紙面の都合上、掲載されていない方もおられます。ご了承ください。



寄 付 者

小田 英生
芥川 泰生
峰 悦男
財部 貴資男
高橋 雄二
安部 久美子
世戸 憲男
照屋 武
森岡 千鶴子
若山 久栄
松井 美和子
小柳 衛
坂本 紀久恵
松井 美和子
松川 文江
松本 いく子
高濱 結樹
小森 啓範
林 信人
末廣 勝也
松田 綾子
本山 武虎

神埼ライオンズクラブ
国際ライオンズクラブ

くらとみ眼科医院患者様御一同
菊池眼科患者様御一同

タオル 古賀 朝岐
中園 富子
田中 照司

眼鏡 国際ソロプチミスト
(株)大丸眼鏡商会
高松時計台
倉富 登美榮

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



POSA理事・監事名簿



理事長	倉 富 彰 秀	(医療法人 輝秀会 理事長)
副理事長	井 上 望	(医療法人 菊池眼科 理事長)
理 事	橘 光 幸	(橘商事 代表)
	檀 本 純 一	(大坪内科医院)
	野 口 守	(萬永堂 代表)
	林 敢 為	(国際ライオンズクラブ 337-C地区 名誉顧問)
監 事	末 永 博 義	(末永司法書士事務所 代表)
	峰 悦 男	(峰公認会計士事務所 代表)

(敬称略・五十音順)

POSA名誉会員

名誉会員	山 口 祥 義	(佐賀県知事)
	中 尾 清一郎	(佐賀新聞社長)

(敬称略・五十音順)

POSA一般会員

芥川 泰生	大島 博	高橋 良太	原 康夫	山口 克宏
(株)アステム	各務 晃子	瀧本 峰洋	八谷 克幸	吉田 幸代
東 キヨ子	(株)神埼薬局	田中 清隆	秀島 正博	与那嶺 豊
伊崎 祐介	倉富 亜由美	田中 博都	福島 武	
井上 香奈子	財部 貴資男	田邊 樹郎	堀 秀行	
井上 麻記	柴田 一馬	照屋 邦子	松本 博	
今村 玲南	杉戸 正和	富永 琴里	毛利 伊津子	
宇野 光次	砂原 伸彦	富永 杏花	(株)毛利工務店	
江崎 円香	世戸 憲男	西本 千紘	森岡 千鶴子	
枝光 理	参天製薬(株)	(株)日本点眼	八木 隆明	
江原 信子	高橋 雄二	沼田 公子	安谷 久美子	(敬称略・五十音順)

POSA (ポサ) 規約 (一部抜粋)

(目的)

第3条 本会は、眼科衛生学に関する知識の普及及び白内障・緑内障に対する研究・ボランティア活動を行い、視覚障害者の減少に寄与することを目的とする。

(入会金及び会費)

第7条 正会員は、入会金壹万円、及び年会費壹万円を納入しなければならない。

POSA一般会員入会を随時受け付けております。ご連絡下さい。(POSA事務局 田中)

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



Project Operation Sight for All

POSA 事務局

〒842-0002 佐賀県神埼市神埼町田道ケ里2435-1

医療法人 輝秀会 くらとみ眼科医院

TEL : 0952-52-8841 FAX : 0952-52-8765

ホームページアドレス <http://www.posaoffice.net/>

E-mailアドレス posa@train.ocn.ne.jp

2015年7月発行